

令和8年度 施設管理運営事業評価票(令和7年度実施分)

1 評価対象施設

公の施設の名称		宝塚市立宝塚自然の家			
所在地		宝塚市大原野字松尾1番地			
指定管理者	団体名	(一社)宝塚にしたに里山ラボ	指定期間	開始日	令和7年4月1日
	所在地	宝塚市大原野字波坂1番地の64		終了日	令和12年3月31日
選定方法		公募	評価実施年	指定期間5年のうち1年目	
施設設置目的		北部地域の活性化における重要拠点の一つとして考えられ、誘客施設としての役割や学校教育カリキュラムや一般市民の利用促進を図り、自然と触れ合う機会を増やすようなイベントを通じ、西谷地域の活性化に繋がる事業運営を目的とする。			
主な実施事業		(1) 野外活動並びに自然体験及び自然環境学習に係る活動に関すること。 (2) 自然を活用したスポーツ、レクリエーション及び生涯学習に係る活動に関すること。 (3) 宝塚市教育委員会が必要があると認める事業。			

2 利用状況(目標と実績)

成果指標		単位	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a	利用人数	人	10000	11267	10000	11,757	10000	12850	11000	13312
b	イベント実施回数	人	1800	2108	1800	3923	1800	4185	1800	4360
c										
d										
e										

3 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:千円)

区 分		令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和7年度決算	
収入計		A	19,623	20,328	20,707	25,257
	指定管理料		18,000	18,000	18,000	21,500
	利用料収入	C	0	0	0	12
	自主事業収入		1,523	2,244	2,707	3,485
	その他		100	84	0	260
支出計		B	19,325	19,766	20,160	25,090
	指定事業費		18,000	18,000	18,000	21,512
	内、人件費	D	9,150	10,260	9,433	12,682
	内、再委託料	E	1,716	1,540	1,388	1,786
	自主事業費		1,325	1,766	2,160	3,578
事業収支		A-B	298	562	547	167
利用料金比率		C/A	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
人件費率		D/B	47.3 %	51.9 %	46.8 %	50.5 %
再委託費比率		E/B	8.9 %	7.8 %	6.9 %	7.1 %

・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。

・着色セルは、自動計算としている。

・事業費は、前年度以前の決算を記載する。

補足説明	令和4年4月から指定管理者制度を導入(指定管理者:一般社団法人宝塚にしたに里山ラボ)
------	--

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価	
①サービスの履行の確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A	
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A	
	外部委託	事業計画に即し、計画的に研修等を実施している。	A	A	
		外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており適切である。	A	A	
	法令遵守等	外部委託業者に対して協定書等を遵守させている。	A	A	
		法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	A	A	
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令等を遵守している。	A	A	
		個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じている。	A	A	
	情報公開	情報公開に関する法令等に準じた運用を行っている。	A	A	
		協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	A	A	
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A	
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A	
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A	
市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。		A	A		
緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A		
	緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練を行っている。	A	A		
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。	A	A		
	財務状況	団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	A	A	
《 総 括 》		「業務の実施体制」に関する評価 【標準18項目／本施設 項目】	A	A	
②サービスの質の評価	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A	
		事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	A	A	
	利用者対応	利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。	A	A	
		利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。	A	A	
	事業運営	言葉使い、態度、服装等接遇が適切である。	S	S	
		事業計画に即し、受託事業を実施している。	A	A	
	維持管理	施設の目的に添った自主事業を実施している。	S	S	
		事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	S	S	
	環境配慮	仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行っている。	A	A	
		仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。	A	A	
	広報活動	備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	A	A	
		協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	A	A	
	苦情等対応	省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	S	S	
事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。		S	S		
安定性	利用者アンケート等	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A	
	利用状況	要望、苦情等を整理し、遅滞なく市に報告している。	A	A	
	《 総 括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準18項目／本施設 項目】	A	A	
	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A	
指定管理者所見 (成果、課題、今後の改善点等)	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	A	A	
	経費縮減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	A	A	
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	A	A	
	《 総 括 》		「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設 項目】	A	A
	西谷地域の環境を活かした自然体験や里山保全、里山の暮らしや食育などを取り入れた自主事業をさらに拡充し、SNS発信や駐車場改善の効果もあって4年間で約20%の来場者増を達成、目標を継続して達成した。校外学習の受け入れなど学校教育及び活動団体、地域とも連携し、子どもたちへの自然体験の提供に取り組んだ。特に「100人お米作りプロジェクト」では、西谷中学校や民間企業、大学との産官学連携へと発展させ、多世代協働による質の高い自然体験を提供した。光熱水費及びコストの削減など支出の圧縮にも努めた。一方で、施設の老朽化に伴う今後の修繕増加への懸念があるが、関係人口による施設整備の活動グループが立ち上がるなど、施設のさらなる保全と活用については協議と実証を重ねており、より多くの来場者を安心安全に受け入れるための改善を行っている。地域及び活動団体との連携にも注力し、連携したイベントの実施や地域の方にも参加いただく事業も実施した。今後も地域の方と来場者との交流の促進や地域住民や団体・施設等と情報交換、意見交換を行い、さらなる連携を図りながら、西谷地域の活性化に繋がるように取り組んでいく。				
	指定管理を導入してから4年が経過し、SNSでの情報の発信や学校へのチラシ配布など、継続的な広報により利用者数の増加につながっている。校外学習の受け入れなど学校教育及び活動団体、地域とも連携し、子どもたちへの自然体験の提供に取り組んだことを評価している。幼稚園や保育園の利用に繋がるようなコンテンツの充実を期待している。また、子どもだけでなく、大人も対象とした多様なイベントの実施についても期待している。				
前年評価	A	総合評価	A		

※評価区分

評価基準:	S	=	協定書等の水準を大きく上回っており、優良である。
	A	=	協定書等の水準を満たしており、良好である。
	B	=	協定書等の水準を満たしているが、一部改善が望ましい。
	C	=	協定書等の水準を満たしておらず、改善が必要である。
《総括》:	S	=	評価基準が全てA以上であり、かつSが過半数である。
	A	=	評価基準のうちBが3割未満で、Cがない。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S	=	自己評価、所管評価の《総括》にB・Cが含まれず、かつSが過半数である。
	A	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、Bが2つ以下である。
	B	=	S、A、C以外
	C	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。